質の高い教育を実現するための
教員養成機能の強化
—教員養成機能の充実プロジェクト—

2012年7月30日(月)プロジェクト中間報告会
4,330万円(2012年度)
報告者:松田
(全国13億円、56大学)

教員養成機能の充実
—学長のリーダーシップによる
教員養成機能の高度化—

- ◆ 学士課程, 修士課程, 博士課程と一貫した教員養成機能の充実強化を図るためそれぞれ課程整備を行うとともに, 教育実習の事前事後の指導強化並びにキャリア教育を充実・強化し, 教師あるいは社会人として必要な人間としての「力」を身につけさせる。
- ◆ 学部教育においては教養教育を重視し, 大学院教育においては学部教育を基礎に, 学校教育に求められるさらに高度な能力を有する教員の養成を推進する。
- ◆ 大学教育のカリキュラム・授業・学生の学習支援, 教育実習, キャリア教育等を質的に高め, 本学の高等教育機関としての役割を発展・充実させる必要がある。

【独創性・新規性等】

1. 本学は、教員養成機能強化に向けて4つの課題(1. 学士課程, 修士課程, 博士課程と一貫した教員養成機能の充実強化, 2. 国際化に対応した教員養成機能強化, 3. 教育委員会と連携した教員養成機能強化, 4. 大学と附属学校とが一体となった教員養成機能の充実)に大別して取り組む
2. 殊に, 1. は, 本学独自に行うべき事項に加え, 他の教員養成3大学(北海道教育大学, 東京学芸大学, 大阪教育大学(HATOプロジェクト))との連携を新たに図っていくことによって, 教員養成の質保証のための制度を構築し, 4大学間の単位互換制度等の実施を検討する等, 教員養成機能を向上させるための新たな取組
3. 他の東海地区7大学(岐阜大学, 静岡大学, 浜松医科大学, 名古屋大学, 名古屋工業大学, 豊橋技術科学大学, 三重大学)と事務連携を図り, 共同調達, 事務情報のクラウド化や財務会計システムの統合化等を検討しているが, それらの大学との教育研究連携の可能性についても別途検討していく方向
4. 本学内で独自に推進していくべき事項, 教員養成4大学で連携協力して推進していく事項, 東海地区8大学で連携協力して推進していく事項等, 複数にまたがるが, それぞれの中で本学の特色を生かし, 教員養成大学としての役割を着実に果たしていくための取組を推進する。

2012年度取組内容

1. 教員養成課程(初等教育教員, 中等教育教員, 特別支援学校教員, 養護教諭)の学校教員養成課程への一本化に向けた調査研究
(主にアンケート調査及び分析)
2. 現代学芸課程の地域ニーズ, 今後の在り方を検討
3. 修士課程のカリキュラム改革, 定員充足状況分析
4. 教育実習の事前指導, 事後指導等のデジタルコンテンツ作製
○事前指導・事後指導編
5. キャリアアドバイザーを配置し, 年間を通じたガイダンスや個別指導による「人間力」育成及び教員就職支援

事業の目的 (1) 大学改革 1,060万円

- ① 教員養成4課程の学校教育課程への一本化に向け、教員養成教育の実証、卒業後の進路動向調査を実施する。
- ② 現代学芸課程について、本学における教員養成以外の役割やニーズを調査し、今後の在り方(学部化)について検討する。
- ③ 修士課程におけるカリキュラム改革、定員充足状況を分析し、今後の方策を練る。

実施内容

- ① 進路動向調査を実施し、教員養成教育の実証を行う。(証明したいこと:2枚免の必要性。定員増(人数の根拠要)の必要性。)
調査対象:教員養成課程の卒業生, 県市町村教育委員会
- ② 教員養成以外の課程の必要性, 学部化する必要性を検証する。
- ③ 修士課程で身につけておきたい能力, ニーズの調査。
- ④ 人件費810万円、物件費250万円

<進捗状況・今後の予定>

未実施・未定

※なお、人件費8,100千円のうち、約6,000千円は執行済。研究補佐員×1、非常勤事務職員×1の採用予定は未定。

①教員養成大学として、教員養成を高い割合で行っていることの証明。
【調査開始】

平成18年以降の非常勤(臨時)採用教員がその後正規教員として採用されているかを(採用されていれば、採用年も)、担当課で追跡調査を実施。※往復はがきによる

②地域の教育界で活躍する人材(ニーズに応えられる資質能力を備えた人材)を養成していることの証明。【第二専門委】

③教養教育を重視する大学として、教員以外の卒業生の存在感及び地域ニーズを証明。【第三専門委】

事業の目的(2) キャリア形成支援の充実強化

1,460万円

- ◆ キャリア支援センターに民間企業経験者1人(常勤)、教員退職者1人(非常勤)をキャリアアドバイザーとして配置し、年間を通じガイダンスや個別指導により、採用側が求める人材像、教師・社会人として必要な人間としての「力」を理解させる支援を行う。
- ◆ 民間企業経験者、教員退職者の配置 約1,000万円
- ◆ ガイダンス・個別指導の実施 約460万円

<進捗状況・今後の予定>

1. 民間企業経験者(常勤職員)の配置, ガイダンス・個別指導の実施は, 4月以降順調に進捗。
2. 人件費10,000千円のうち, 約2,000千円は未執行。

事業の目的 (3) 教育実習の充実 1810万円

- ◆ 教育実習における学生の実習効果を高めるために, 事前指導編, 事後指導編のデジタルコンテンツを作製する等, 有効な教材を開発し, 教育実習の成果の充実を図る。
- ◆ 人件費(再編集など12月に1~2名の要員を確保) 90万円
- ◆ コンテンツ制作費(7月中旬の打合せにより積算するため, 具体額未定) 未定
- ◆ 物件費(デジタルコンテンツ編集・配信用機器類) 250万円
- ◆ 教育実習室の整備(3地区7附属分) 265万円
実習生控室の電源整備150万円
教材・指導案・レポート作成用プリンタ90万円
消耗品(印刷紙, トナーなど)25万円

<進捗状況・今後の予定>

1. DVDコンテンツの素材とする教育実習風景の撮影
→済(40分の素材撮影経費等50,000円予定)
2. シナリオ検討中(教務課担当:全編30分程度)
3. 全体構成に関する企画提案について業者(候補)との打合せ(7月中旬予定)(実施経費の積算:シナリオ構成の編集,コンテンツ(素材)の編集,アニメーション制作,校種別・教科別コンテンツの提案など)
4. 事前指導編プロトタイプの確認(11月)
5. 再編集など(12月)
6. 事後指導編デジタルコンテンツの検討(11月以降)
7. 人件費の研究補佐員×1,非常勤事務職員×1の採用予定は未定。

2013年度の取組(概算要求)

1. 教員養成課程(初等教育教員,中等教育教員,特別支援学校教員,養護教諭)の学校教員養成課程への一本化に向けた調査研究
(主に対面調査及び分析)
2. 現代学芸課程の地域ニーズ,今後の在り方を検討
3. 修士課程のカリキュラム改革,定員充足状況分析
4. 教育実習の事前指導,事後指導等のデジタルコンテンツ作製
○学校種別・教科別編 No.1
5. キャリアアドバイザーを配置し,年間を通じたガイダンスや個別指導による「人間力」育成及び教員就職支援

愛知教育大学における教員養成機能強化の取組(全体像)

愛知教育大学

1. 学士課程, 修士課程, 博士課程と一貫した教員養成機能の充実強化

- ①大学改革
 学士課程の教育改革
 修士課程・教職大学院の充実
 博士課程の目的実現
 ②教育実習の充実
 ③キャリア形成支援の充実強化

2. 国際化に対応した教員養成機能の強化

- 国際的センスを身につけた教員の養成
 ・ユネスコスクールへの取組(持続発展教育(ESD)の推進)
 ・国際教育協力の推進
 ・本学の外国人児童生徒の成果等を活用した国際感覚を有する教員のリテラシー形成 等

3. 教育委員会と連携した教員養成機能の強化

- 教育委員会と連携した教員養成及び研修機能強化
 ・現職教員のスクール・リーダーとしての研修の実施
 ・協定に基づく、教育連携の積極的推進
 →学生ボランティア派遣支援
 →学校現場への教育支援 等

4. 大学と附属学校とが一体となった教員養成機能の充実

- 大学・附属学校(及び教育委員会)が一体となった教員養成の機能強化
 ・実習校・研究校としての附属学校の機能強化(教育実習, 大学・附属学校連携事業等の強化推進)
 ・拠点校・地域のモデル校としての附属学校の機能強化(教育委員会との連携) 等

⇕事務連携

★東海地区 7大学※との連携

(※岐阜大学, 静岡大学, 浜松医科大学, 名古屋大学, 名古屋工業大学, 豊橋技術科学大学, 三重大学)

<内容>

東海地区国立大学法人事務連携センター(仮称)の設置

- 事務情報のクラウド化
 財務会計システムの統合化 等の実施方法の検討
 ※教育研究連携の可能性については別途検討

教育研究連携

★教員養成 3大学※との連携(HATOプロジェクト)

(※北海道教育大学, 東京学芸大学, 大阪教育大学)

<内容>

- 教員養成機能強化につながる新たな試み
 ・教員養成の質保証のための制度の充実
 ・4大学間の単位互換制度 等
 4大学の特色・実績を生かした共同利用組織の整備 等

<凡例> ...特別経費(教員養成機能の充実)で実施。 ...学長裁量経費、その他の特別経費等で実施。
...国立大学改革強化推進事業経費で実施(予定)

まとめ

- ◆ 今年度事業の着実は遂行
- ◆ 教員養成高度化に向けた取組との一体性を図ること
- ◆ 教員養成課程・現代学芸課程の着実な整備
- ◆ 教員養成ミッションの再定義に備えた対応
- ◆ 何よりも学生の質的強化につながる成果を!
- ◆ 全学で一体となって取り組みましょう!